



防衛大学校総合情報図書館グローバルセキュリティセンターニュースレター

GS News Letter Vol.1

Center for Global Security
National Defense Academy of Japan
October 1, 2016

発行日：2016年10月1日（創刊号）

ご挨拶

2016年4月、防衛大学校にグローバルセキュリティセンター（GS）が発足しました。GSは、国際社会が直面する多種多様な安全保障課題を多角的に研究し、その研究成果を広く内外に発信することを目的としています。

GSの特徴は、第一に、文理交叉型の統合的な研究アプローチにあります。約300名の防衛大学校教官の専門知識を総動員し、人文社会科学、理工学、防衛学による学際的な最先端研究に取り組みます。第二に、個々の研究成果に裏付けされた共同研究を積極的行います。学内外の研究者、シンクタンク、官公庁の政策立案者、民間実務家等との連携・協力を推進することで、GSはグローバルセキュリティの研究拠点となることを目指します。

当面、GSがカバーする研究分野は、アジア安全保障、サイバーセキュリティ、

宇宙安全保障、海洋安全保障、感染症対策と安全保障、防災・危機管理、ジェンダー・メンタルヘルス、ミタリープロフェッショナルリズム、安全保障・軍事作戦法規など、国家国民の安心・安全に関わる広範囲なものです。GSは、これらの研究分野に属する諸課題を、原則2～3年単位のプロジェクト方式で分析します。必要に応じて、国際ネットワークを構築し、研究の企画・立案、実施、発表、評価を行います。そのため、専門的知見を有する各界の有識者や博士研究員の協力を仰ぐ予定です。また、GSの研究成果は、冊子媒体の他、電子ジャーナルやホームページなどの電子媒体でも適宜公開する予定です。加えて、研究者間のコロキアム、一般の聴講者にもセミナーやシンポジウムのような形で公表します。

GSの活動へのご支援とご参加を心よりお願いいたします。



グローバルセキュリティセンター長
国際関係学科教授
武田 康裕

GS研究プログラム

グローバルセキュリティセンターでは地球規模の安全保障の中から9つの分野に焦点を当て、防衛に関する基礎的研究の他、軍事科学技術や情報通信技術の高度化によるリスク、海洋、宇宙、サイバー空間などの国際公共財の安定利用に関するリスクといった安全保障上の課題について、学術・実務融合型、文理融合型の学際的アプローチによる研究を推進します。

アジア安全保障 倉田秀也 教授

アジア安全保障に関して防衛省関係者、政策担当者、研究者と意見交換しながら研究を深め、その成果を自衛隊に還元すべく、防衛省・自衛隊の研究アセットを動員したいと考えています。



サイバーセキュリティ 田中秀磨 准教授

昨今のサイバー攻撃の複雑化、発展性に追従するため、法的な問題等を含めより一層多分野との連携を推進します。



宇宙安全保障 山口功 教授

宇宙を安全に利用するための基礎研究、複数無人機の誘導制御・交通管理に関する研究、環境じょう乱が無人機特性に及ぼす影響を調べるための研究を計画しています。



海洋安全保障 森和義 教授

セキュリティ・治安、海洋環境、資源開発、国際的な協力体制の整備・法制など、多様なアプローチからの研究を通して海の平和的利用と持続可能な開発を推進します。



部外研究者
部外研究機関



グローバルセキュリティセンター

- 研究テーマの選定
- 研究プロジェクトの企画
- 研究テーマのマッチング
- 研究者のマッチング
- 共同研究のアレンジ
- 研究の実施



学内研究者

GSは国内外の研究機関との相互連携・協力による研究を推進します

安全保障・軍事作戦法規 黒崎将広 准教授

軍事行動から生ずる被害を極小化するための各種ルールに多角的にアプローチすることで、国際社会における法の支配に資する実務指向の安全保障研究を目指します。



ミリタリープロフェッショナリズム 坂口大作 教授

自衛隊や防衛大学校が将来求めなくてはならない軍事プロフェッションのあり方を、米軍や各国が検討している課題と分析結果を踏まえて探求します。



ジェンダー・メンタルヘルス 河野仁 教授

軍事組織における女性人材登用、ジェンダー意識啓発教育のあり方、防衛省・自衛隊における家族支援や人材の多様性管理および精神保健管理の方策などについて、国際的な標準を視野に入れた共同研究を推進します。



防災・危機管理 別府万寿博 教授

各種災害に対する防災・減災対策やリスク評価手法を検討するとともに、大規模災害における危機管理の高度化に関する研究を推進します。



感染症対策と安全保障 市村徹 教授

主に細胞生物学的な手法により、安全性の確保されている実験系を用いて、感染症・バイオテロ関連の感染・発症の作用機序の探索及び、その予防・防止法の開発基盤となる研究を計画しています。



GS ロゴマークについて

グローバルセキュリティセンターのロゴマークには、防衛省・自衛隊（緑・青）と防衛大学校（紫紺）を想起させる色調を用いています。また、躍動しながら交差する3本の矢には、以下の意味が込められています。

1. 防衛大学校が陸・海・空各自衛隊の幹部養成と統合運用を支える教育・訓練・研究の場であること。
2. 防衛大学校を構成する人文社会科学、理工学、防衛学を有機的に統合した学際的アプローチでグローバルセキュリティ研究に取り組むこと。
3. グローバルセキュリティ研究の拠点として産官学連携の共同研究を推進すること。



研究成果の公開について

グローバルセキュリティセンターの研究成果は、防衛大学校学術機関リポジトリにて公開します。

URL : <http://nda-repository.nda.ac.jp/>

RESEARCH

安全保障・軍事作戦法規研究主幹： 国際関係学科准教授 黒崎将広

「日米同盟における国際法規範の役割に関する学際研究」

日本を取り巻く安全保障環境は、各種テロやサイバー攻撃など、ますますグローバルな性格を持つものへと変容を遂げています。これに伴い、日本の安全保障の基軸をなす日米同盟もまた、こうしたグローバルな問題に対処する新たな枠組みを必要としています。

本研究は、こうした日米同盟の新たな安全保障枠組みに国際法がどのように貢献しうるのかを学際的アプローチによって検討することを目的としています。その際には、「国際法規範は、はたして日米同盟の実施運用そしてさらなる強化を支える『共通言語』ないし『共

通のロジック』たり得るのか。つまり、国際法規範は日米同盟にとって本当に重要なのか。」という共通の問いを立ててこれを行います。

本研究は、平成 28～30 年度の科学研究費補助金（基盤研究 B）により実施されます。メンバーは防衛大学校の内外の研究者で構成され、それぞれの専門分野についても、国際法だけでなく、政治学や国際関係論と多岐にわたります。研究期間中はメンバー同士で会合を重ね、その研究成果をそれぞれが様々な媒体で積極的に行うことを予定しています。



「2+2」会合で安倍内閣総理大臣を表敬する日米の防衛・外務四閣僚（平成 26 年版防衛白書より）

センター発足

平成28年度の予算成立に伴い、グローバルセキュリティセンター（センター長・防衛教官 武田康裕以下17名）が発足し、2016年4月1日に辞令交付が行われました。同センターは、防衛大学校がさらに飛躍・向上していくための取り組み、「新たな高み」プロジェクトの一つとして発足したものです。

グローバルセキュリティセンターは、現代社会が直面する安全保障上の課題における、①学術と実務の融合、②学際的アプローチと国内外の教育研究機関との連携による学術研究基盤の強化と学問的発展、③本科・研究科教育の国際化推進、④研究成果の国内外への発信を目的として新設されました。

学校長は、辞令交付後の訓示において「防衛大学校は、今後も新たな高みに向けて、様々な施策を具現化して行く。「すべては学生のために」を旨としつつ、業務に邁進してもらいたい」と激励しました。



グローバルセキュリティセンター事務室の前で記念撮影
左：武田センター長、右：源田企画・発信部門長

活動報告

第1回コロキウム開催 「社会 / 国家レジリエンス、メンタルヘルス、文化的差異」

2016年7月20日（水）、防衛大学校社会科学館1階大会議室において、今年度第1回目のグローバルセキュリティセンター主催によるコロキウムを開催しました。ゲストスピーカーに軍事心理学研究の分野で世界的に著名なルーベン・ガル博士（イスラエル工科大学サミュエル・ニーマン国家政策研究所シニア・リサーチ・フェロー）を迎え、主に個人・地域社会・国家レベルのレジリエンスの定義と事例研究の一例としてイスラエルの第2次インティファダ期（2002～2004）の地域社会についてご講演いただきました。原則として英語で行いましたが、教官・研究科学生など十数名の聴衆からはレジリエンスの定義内容や有効な測定指標に関する積極的な質問がなされ、盛況のうちに終了しました。

その他の活動は以下のとおりです。

- ・ 4月21日（木） 韓国国防研究院（KIDA）の研究者との意見交換
- ・ 6月21日（火） 防衛装備庁との意見交換
- ・ 7月11日（月）～16日（土） 赤十字国際委員会（ICRC）アジア大洋州国際人道法セミナーに参加

Information シンポジウム開催のお知らせ

グローバルセキュリティセンター 発足記念シンポジウム

日時：平成28年11月14日（月）15：00～18：30 場所：防衛大学校記念講堂

基調講演 「アメリカ大統領選挙と今後の日米関係」

ジェラルド・カーティス コロンビア大学政治学部名誉教授

パネルディスカッション 「危機管理 - 予知・予防か、事後対処か - 」

司 会： 庄司隆一 防衛大学校教授 グローバルセキュリティセンター研究部門長

加来 浩器 防衛医科大学校教授 「熊本地震における感染症拡散」

土屋 大洋 慶應義塾大学教授 「サイバーテロと国際政治」

別府万寿博 防衛大学校教授 「直下型地震による建造物の衝撃的破壊」

宮坂 直史 防衛大学校教授 「ホームグロウンテロと日本」

岸川 公彦 防衛大学校幹事 「熊本地震への自衛隊派遣を振り返る」



編集後記

本紙は年2回のペースで、GSの活動内容や研究内容などの最新の取組を皆様にお届けいたします。今後ともGSをよろしく願います。（鳴原）



GS News Letter Vol.1 (October 1, 2016) 2016年10月1日発行

〔発行人〕 武田康裕（グローバルセキュリティセンター長）

〔編集担当〕 黒崎将広、鳴原良典、高橋由紀子（グローバルセキュリティセンター企画・発信部門）

防衛大学校総合情報図書館グローバルセキュリティセンター 〒239-8686 横須賀市走水1-10-20

TEL:046-841-3810(内線:2304) E-mail: gs@nda.ac.jp URL: <http://www.nda.ac.jp/cc/gs/>

